

「二条城行幸図屏風」部分 江戸時代
(京都市指定文化財 泉屋博古館蔵)

2026年 12 時開場
11/15 [日] 13 時～15 時

『源氏物語』明石史跡始まりの地



ぜんらくじ
善楽寺 (戒光院・円珠院)
たいかんちょう
明石市大観町 11-8

同寺には明暦3年(1657)、松平忠国が建立し自詠歌「いにしへの名のみ残りて有明の明石のうへのおやすみしあと」を刻んだとされる石碑がある。源氏物語史跡始まりの地として、今に至る。同寺には平清盛供養塔もある。

参加資格 歴史や源氏物語に詳しくなくても OK!
この機会に、たっぷりお楽しみください。

参加費 無料

定員 50 名 (先着順受付)

申し込み 9/15 より申し込みフォームにて受付



■講演会■

寛永文化を国許にもたらした城主・松平忠国の功績
～丹波篠山城主(1620～49)、播磨明石城主(1649～59)として
講師 / 義根 益美 (『源氏物語 明石のうへのおやすみしあと』著者)

■展示■ 1 階にて、12 時開場

寛永行幸・文化、松平忠国に関する解説資料など

■史跡散策■

当日は会場周辺の『源氏物語・明石』史跡の散策
もお楽しみください。(チラシ裏に map)

【寛永行幸四百年祭】

寛永3年(1626)、後水尾天皇が大御所(二代將軍)徳川家忠と、三代將軍家光の招きに応じ二条城に行幸した「寛永行幸」。天皇が御所を出ること、ましてや武家のもとに出向くのは歴史上数度だけと異例なことと都をあげての歴史的行事でした。秀忠の五女で天皇の后となった和子や幼い姫宮も招かれ5日間にわたり、舞楽・能楽・和歌など最上級のもてなしが繰り広げられました。行幸には全国から大名が参加し国許に寛永文化の輝きをもたらしたといわれています。それから 400 年を迎える 2026 年、行政・経済界・文化芸術団体等によるオール京都の「文化庁連携プラットフォーム」のプロジェクトとして、寛永行幸四百年祭が行われています。本イベントは連携事業として開催するものです。

講演会・史跡散策

『源氏物語』の記憶を刻んだ城主—— 松平忠国が篠山・明石にもたらした 寛永文化の輝き

丹波篠山城主(1620～49)
播磨明石城主(1649～59)として

寛永行幸四百年祭連携事業 in ひょうご

大坂夏の陣(1615年)からわずか11年後に行われた寛永行幸(寛永3年/1626)、それに先立つ二条城の改修工事で丹波篠山城主(元和6/慶安2年/1620～49)、播磨明石城主(慶安2/万治2年/1649～59)となる松平忠国は重要な役割を果たしています。忠国は、『源氏物語』「明石」史跡を創った明石城主としても知られるものの、建立理由は多くの謎に包まれています。謎を解き明かす鍵は、寛永文化との関わりにあるのかもしれない。当日は、行幸の絵巻に描かれた忠国とされる肖像も紹介し、寛永行幸・寛永文化との関わりについて、講師による豊富な史料をもとに紐解いていきます。



忠国・篠山城主時代。寛永文化を伝える絵馬

慶安2年(1649)、忠国が篠山を離れ明石へ行く際に奉納したとされる絵馬「黒神馬」。狩野尚信・作といわれている。尚信の兄・狩野探幽は後水尾天皇を迎えるための二条城大改修で障壁画を担当するなど、幕府のお抱え絵師として寛永文化の最前線で活躍した。絵馬は現在、丹波篠山春日神社 奉納絵馬殿にある。丹波篠山市指定文化財。



寛永行幸
四百年祭
連携事業

主催 寛永行幸四百年祭連携事業 in ひょうご実行委員会 (実行委員長: 相島淑美神戸学院大教授)
後援 兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸新聞社、サンテレビ 協力 善楽寺 (戒光院・円珠院)
問合せ ひょうご実行委員会事務局 (増田) 電話 080-4243-0391



